

開催日：令和3年(2021年)6月29日

会場：腰越中学校

番号	質問・意見の内容	市の回答
1	<p>深沢地域整備事業が行われることによって、腰越に住む私たちの生活がどうなるのか心配しています。以前に、腰越支所が廃止になるといったチラシを見たことがあります。深沢地域整備事業が進んでも、婚姻届けや戸籍の届け出などといった手続きは、継続して腰越支所で出来るのでしょうか。</p> <p>また、図書館も、以前と比べ充実していますので、図書館のことも含めて教えてください。</p>	<p>鎌倉市では、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に並ぶ第三の都市拠点として深沢のまちづくりを進めていきたいと考えています。深沢のまちづくりが完成すると年間約16億円の税収増が見込まれ、これを全市的に子育てや福祉など様々な用途に活用していきたいと考えており、深沢のまちづくりは本市の未来に向けた投資として着実に進めていきたいと考えています。</p> <p>支所機能の在り方について市で検討を進めていますが、深沢のまちづくりによって、腰越支所存続に影響が及ぶことはありません。深沢支所に関しては、まちづくりの一環として検討していくこととなりますが、このまちづくりによって、その他の支所が廃止になるといった因果関係はありません。また、これは行政センター全体について同じことが言えますので、図書館、学習センター機能についても、深沢のまちづくりによる、直接的な影響はありません。</p>
2	<p>公園の設置、市場の移転等については説明がありましたが、巷で大きな問題になっている本庁舎の移転については、説明がありませんでした。こうした大きな問題がある中で、この整備計画に変更はないのでしょうか。本庁舎の移転があったうえで、今日説明のあった計画があるのだと思いますが、本庁舎の移転は、前提として既に織り込み済みで計画を進めているのでしょうか。</p>	<p>本日の説明会は、これから都市計画決定を行うにあたり、事前に市民の皆様にご説明するために開催したものです。今回、都市計画決定をしようとしているものは、この地域で土地区画整理事業というまちづくりを行うこと、周辺の道路の拡幅を行うこと等であるため、今回はこの点に集中してご説明しました。</p> <p>また、本庁舎につきましては、土地利用計画(案)の「行政施設」に移転する計画となっておりますが、深沢地域整備事業は本庁舎の移転を前提とした計画ではありません。</p>
3	<p>深沢地域整備事業用地で、農園をつくるのはどうでしょうか。素晴らしい野菜をつくるだけでなく、薬草なども含めて栽培することで、鎌倉に行けば、伝統的な野菜文化があるといった特徴的なまちづくりが実現すると思います。</p>	<p>深沢地域整備事業の土地利用計画(案)において、農地を配置する計画はありませんが、鎌倉野菜や腰越の海産物は、鎌倉市の魅力だと考えています。商業施設において地場の産品を取り扱うことで、深沢のまちの魅力になるのではないかと議論は、まちづくりガイドラインの検討においても行っています。いただいたご意見も含めて、鎌倉ならではの魅力を取り込んだ魅力的なまちづくりについて、今後も継続して検討してまいります。</p>
4	<p>新しい本庁舎に、防災センター・環境センターというようなものを備え付けたいと思います。</p> <p>鎌倉全体としての環境、防災について、腰越は大きな問題点を持っています。それは海、川、崖であり、今すぐにも対応してもらいたいものです。神戸川や二又川に監視カメラを付けて、誰でもいつでも見れるような対策をしてもらいたいです。</p> <p>神奈川県が大津橋付近に設置している監視カメラがありますが、これはいつでもスマートフォン等で川の状況が見られるものです。このカメラについて3年ほど前に市に問い合わせたところ、県が設置したもので分かりませんという回答で残念に感じました。腰越の問題を上げてもらった上で、今回の計画の中での位置付けを考えてもらいたいです。</p>	<p>現在、鎌倉市で大規模な災害が起きた場合、防災拠点となるのは現在の本庁舎ですが、深沢地域に本庁舎が移転した際には、深沢に防災拠点が設置されることとなります。深沢のまちづくりでは、本庁舎と消防本部を並べて整備する計画になっており、その横には総合体育館とグラウンドを整備する計画となっております。防災の専門家の先生方からも、本庁舎の横に体育館やグラウンドがあるという地理的な条件は、防災拠点として非常に強みだというご助言をいただいています。このように行政施設が一体となることによって、災害時に、市民の皆様の安全・安心を守っていけるよう、努めていきたいと考えています。</p> <p>本日は、防災を所管している部署の職員が出席していないため、腰越地域の防災について、詳しいことをお話できませんが、いただいたご意見については、防災部門の職員に伝えるとともに、深沢のまちづくりについても、鎌倉市全域を見据えたうえで業務に臨んでまいります。</p>
5	<p>JRの工場跡地が市に寄付される話が出た時、グラウンドか何かが出来て良くなるなという程度にしか考えていませんでしたが、あっという間に本庁舎が移転してくるという話になりました。この話は、どのような人たちの声があって始まったものなのでしょうか。</p> <p>平成16年に深沢の計画ができてから、突然、本庁舎の移転も含めて、ほとんど決まったような説明がありました。これはおかしいと思います。もう一度、市民の声を聞いて、根本的に考え直すことはできないのでしょうか。</p>	<p>深沢の新しいまちづくりは、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画や、鎌倉市都市マスタープランなど、市民の代表である市議会で承認を得た行政計画に基づくものです。さらに、深沢のまちづくりに関しましては、平成16年に「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」を策定しています。これらの行政計画を公表するとともに、計画に沿って着実に事業を進めていくことが、市の責務であると考えています。同様に、本庁舎の移転についても、市は移転をするという行政計画を定めており、計画に沿って進めております。</p> <p>また、ご質問の中で「JRの工場跡地を寄付された」というお話がありましたが、一部、国鉄からJRに変わる際に、清算事業団用地を市が購入したという経緯はありますが、寄付を受けたものではありません。なお、現在も半分以上の土地を同社が所有している状況です。</p>

6	道路を広げる話がありましたが、ただでさえ今も混雑しています。そういったことも考えた上で色々やってほしいと思います。自分たちに都合の良い話ばかりをしているとしか思えません。根本から計画を見直すことを希望します。	土地区画整理事業で整備する道路に関しては、交通管理者である神奈川県警察本部と、周辺道路の交通に影響がないかということ協議した上で判断をしています。それ以外の道路に関しましても、例えば、三菱電機鎌倉製作所の南側に伸びる道路を整備するなど、極力周辺道路に影響がないように心掛けてまいります。
7	腰越支所の廃止に関して、先ほど、支所の廃止はしない、と力強いお言葉をいただきました。それが本当であるなら、広報や自治町内会の回覧等で周知していただきたいです。腰越地区に住んでいる方は高齢者が多く、深沢まで手続きに行かなければならないということになれば、困る方が多いと思います。そういった心配をしている方も、書類をいただければ安心すると思います。	先ほど明言したのは「深沢のまちづくりを行ったことで、腰越の行政センターが廃止されるという因果関係はありません」ということです。行政センターの在り方については市で検討をしています。例えば、深沢に新しい拠点ができるから、腰越や玉縄の行政センターを廃止して、深沢に集約しようという考えは全くありません。ここでお話できることは、深沢のまちづくりに関連づけて、支所の在り方を考えていることはない、ということです。支所がどうあるべきかという検討をしている部署がございますので、腰越支所の存続について心配の声が多かったというご意見を持ち帰り、担当に直接伝えます。
8	今の本庁舎を、なぜ深沢に移転しなければいけないのか、最初に説明がなければおかしいと思います。なぜ、鎌倉市の駅からすぐそばの本庁舎を、モノレールでしか行けない深沢に移転しなければいけないのでしょうか。この事業用地に仮庁舎を建設し、今の本庁舎を建て替えるなどの構想はできないのでしょうか。	本庁舎の移転につきましては、平成26年から本庁舎を含め公共施設全体がどうあるべきかの検討を進めてきました。防災、コスト、時間、必要面積の確保など複合的な観点から、移転先の検討を行いました。お話をいただいた仮庁舎については、仮庁舎を建てるだけでも数十億円の経費がかかります。さらに、仮庁舎への引っ越し、本庁舎へ戻るための引っ越しにも数億円かかってしまいます。その分時間もかかりますので、非常に負担が大きいと考えています。今の本庁舎の所在地は、防災面でみると、鎌倉市全域を網羅する必要がある防災拠点としては脆弱であり、3方が山に囲まれている場所は、道路が寸断されてしまうと、鎌倉駅前から腰越地域を含む市全域に対して防災面での支援をすることが難しくなってしまいます。そういった総合的な検討を積み重ねた上で、最も適した立地として、深沢への移転が決定しました。
9	新駅がなぜ鎌倉市にとって必要なのか分かりません。また、新駅設置に関して、約150億円の事業費に対して、鎌倉市は27.5%の負担であるにも関わらず、実質4億円の負担になることについて、再度説明をしてください。また、4億円であるとしても、藤沢市にできる駅に対して負担しなければいけないのでしょうか。	新駅ができた場合に藤沢市民と鎌倉市民が得られるメリットのシミュレーションを実施し、藤沢市域に位置する駅ではありますが、鎌倉市民と藤沢市民が得られるメリットが同等であるという結果を得ており、この結果に基づき、鎌倉市も新駅に対して一部費用を負担することで合意しています。また、費用負担については、土地区画整理事業という手法でまちづくりを行います。これは、権利者の皆様から少しづついただいた土地を保留地として売却し、その費用を事業費に充てるという方法です。鎌倉市の新駅への負担割合である27.5%（約41億円）に対し、この保留地の売却益のうち約37億円を充てることによって、鎌倉市の実質的な負担は約4億円になると試算しています。
10	土地区画整理事業に関する事業費は、総額でいくらなのでしょう。	土地区画整理事業の事業費は約168億円かかりますが、国から補助金を約35億円、保留地処分金を約97億円を見込んでいることから、市負担は約36億円と想定しています。また、深沢地区と村岡地区をつなぐ橋の事業費は約15億円かかりますが、国からの補助金を約8億円見込んでおり、市負担は約7億円と想定しています。新駅の設置費については、全体で約150億円となり、そのうち鎌倉市の負担は約41億円となりますが、約37億円は土地区画整理事業の保留地処分金から負担するため、市の実質的な負担は約4億円と想定しています。
11	事業費や市の負担額についての説明がありましたが、この事業費の中に新しい本庁舎の費用は入っているのでしょうか。	新しい本庁舎の費用は入っていません。
12	この計画は、新駅ができる前提で計画をしているようですが、今後、何らかの社会情勢で、新駅ができないという状況になった場合は、この計画はリセットするのでしょうか。	この事業計画の収支は新駅ができることを前提に試算したものであるため、駅ができないということであれば、事業計画を見直すこととなります。全面的にリセットするかどうかは、ここでは明言できませんが、その時の状況をみて、必要な検討を行います。
13	深沢地区に移転する本庁舎の建設は決定しているのでしょうか。	本庁舎の移転について、市は移転をするという行政計画を定めており、計画に沿って進めております。
14	事業費をどのように工面するかという議論がないまま、本庁舎の計画が進んでいることが理解ができません。新駅が建設されれば、この計画は進むということですか。	この事業計画は、新駅と往来する道路計画であることや、新駅ができる藤沢市村岡地区との一体施行であることから新駅を前提とした計画ですが、本庁舎の移転を前提とした計画ではありません。なお、実際に事業を進めていく中では、必要な予算について、市議会の審議を経る必要があります。

15	<p>今日の説明について、全体感が湧かず、説明しておきたいことだけ説明している印象を受けました。まず、この整備計画の目的が何か分かりませんでした。コンセプトの説明はありましたが、何を実現するために、市民に対してどのようなことを提供するためにこの事業を行うのかが分かりませんでした。</p>	<p>本日の説明会は、これから都市計画決定を行うにあたり、事前に市民の皆様にご説明するために開催したものです。都市計画決定とは、鎌倉市の在り方を決めるという重要なものですので、法令等で、都市計画決定を行う前に、市民の方にしっかりと説明しなければならないと定められています。</p> <p>今回、都市計画決定をしようとしているものは、この地域で土地区画整理事業というまちづくりを行うこと、周辺の道路の拡幅を行うこと等であるため、今回はこの点に集中してご説明しました。</p> <p>皆様の関心が、本庁舎の整備や腰越地域の今後、防災対策といったことであることは重々承知していますが、今回は一定程度焦点をしぼりお話ししました。その点、全体の把握が出来なかったといったご不満を抱かれた部分もあるかと思いますが、本庁舎移転、防災等については、これまでも皆様に対する説明の機会を設けており、今後も設けていきたいと考えています。</p>
16	<p>この地域は、津波があった場合、柏尾川からさかのぼってきた水が浸水すると思いますが、そういった想定はされていないのでしょうか。千年に一度のことだから想定しなくてよいということですか。</p>	<p>深沢のまちづくりにおいては、地震・津波の専門家を交えた学識経験者による会合をつくり、災害リスクについて様々な資料を用いて検討してきました。その中で、地震、津波など様々な想定を引用しましたが、どの想定を踏まえても、柏尾川を津波が遡上して、深沢の新しいまちづくりを計画している地域に、津波による溢水を引き起こす危険性はないという結果に至りました。</p> <p>また先程、千年に一度、というお言葉がありましたが、これはおそらく、年超過確率1000分の1の降雨量による、河川からの洪水についてのハザードマップのお話だと推察します。これに関してご説明しますと、深沢地区のまちづくりの中で、本庁舎の建設予定地については、年超過確率1000分の1の想定最大の降雨量（24時間あたり632mm）であっても、柏尾川から溢れた水は浸水をしないというハザードマップになっています。それ以外の場所については、一定程度の浸水が見込まれていますが、本庁舎が建設される場所については、水に浸からない高さを確保できることを確認しています。</p>